

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900805		
法人名	北海道医療株式会社		
事業所名	グループホームハッピーヴィラしんまち		
所在地	旭川市6条西1丁目1番2号		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	平成26年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成13年12月より開設し、今期で13年。9名入所(1ユニット)少人数ならではのアットホームなグループホームです。常日傾心がけ取り組んでいることは、各入居者様の望みを出来る限り叶えられるよう又、自宅に居た時と近い生活が送れるよう個別ケアを重視した取り組みを行っております。他、各入居者様の出来ることや趣味、特技を生かした活動を考慮し、意欲、残存能力、機能現状維持を図りながら無理なく、ご自分の生活ペースで過ごせられるよう配慮いたしております。他、隣近所との触れあいを考慮し、1～2ヶ月に1回、講習会や笑うヨガなどを取り入れ、地域に呼びかけながら交流を図り、共に同じ地域で助け合い、楽しく生活が送れる様、地域に根ざしたグループホームを目指し取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0172900805-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年12月4日

ハッピーヴィラしんまちは、スーパーなどがある利便性の良い場所にある。企業の社員寮を改装した建物である。2階建てに1ユニット9名の利用者が生活しており、介護度が低い利用者が多いことから職員は利用者の生活の豊かさや地域との交流の充実を目標に支援を行っている。一人ひとりの個別支援の実現について検討し、グループホームでの生活の特性を理解したうえで、利用者個別の希望や習慣の継続ができるよう工夫を重ねている。事業所がある地域は町内会活動が不活発であるなどの困難があるが、地域のつながりを事業所を中心に再構築してほしいという願いも込め、利用者と地域住民の交流の機会を作るなど積極的な取り組みを行っている。利用者の趣味に合わせた地域行事への参加やリングブルの収集による社会貢献、利用者の作品を高齢者文化展に出品して展示を見に出かけるなど、利用者の楽しみに結びつく活動に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の尊厳、尊重を基に各入居者様、ご家族様、地域の方々へ対応させていただき、共に身近な地域で明るく楽しい生活を送っていただけるよう配慮を用いた理念であり、意識しながら取り組んでいる。	職員はそれぞれのネームプレートの裏に理念を携帯し、ケアの振り返りを行っている。また、居間にも掲示し、利用者にも表明しながら理念に沿った支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	催しなどで地域に呼びかけ交流を図りながら町内の情報やグループホームでの活動を話し地域と一体になれるように努めている。	町内会の活動があまりない地域のため、地域住民の集う場の提供も行いながら利用者が交流できるよう取り組んでいる。回覧板で事業所の行事などを案内している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や催しなどで当グループホームとはどのような所なのか？どのような方が入所されているのか？又、認知症の方への対応の仕方について話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態などから行方不明者が出た時の対応や応援要請、他、避難訓練の内容についてご意見をいただきながら即時の対応、サービスに活かせるようにしている	運営推進会議は事業所の運営のモニター役と地域づくりの両方を目指し定期的に行っている。災害についての議題など地域との協力や助言を受け議事録は事業所に設置している。	家族等の参加が少ないため、参加を促す工夫が期待される。また家族が遠方に居住しているなど参加が難しい場合もあり、家族への議事録の送付を通し仕組みや情報の共有を図ることが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法令内容や業務諸事項について相談、ご意見、ご指導をいただきながら連携を図り取り組んでいる	法令の改正などに合わせて行政との打ち合わせを行っている。運営規定や契約書の見直しの際には行政からのアドバイスを得て利用者説明を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束になりうると思う前の段階で個人に対する尊厳と尊重から考え対応の仕方について考慮しながら必然的に拘束にならぬケアを心がけている	長期間勤務する職員が多く、数年前に職員研修を行っている。日常的なケアの中で身体拘束に当たるかどうかを常に話し合っている。玄関の施錠を行う場合は、家族にも事情を話し了解を得て行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	上記同様、拘束、虐待になりえると思う前に対応の仕方について話し合い何時の間にかにならぬよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等については深く学ぶ機会は今だ出来ていないが、今後権利擁護の必要性について話し合い勉強をしてゆきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時、急な事情があり、予定日より早い退所となったことがあったがその後は十分な話し合いから納得をされ、退所後もご家族様のご相談を聞いたりしながら繋がっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、ご意見を話せる状況であり、ご本人様、ご家族様と話し合いながら運営に活かされるようにしている。	利用者の家族が不安に思っていることについては、職員も一緒に学びながら話し合いを行っている。また、設備に関する要望は法人本部にも伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営についての意見は出てこないが、業務改善点や提案については常に会議の中や個別に伺い話し合いながらより良い業務遂行がなされるようにしている。	人事考課制度があり、管理者が職員面談を行っている。毎月のスタッフ会議や申し送りの際にも意見が出され、職員全体で検討する場を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	来所し、業務遂行の様子を伺いながら状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や研修受講が出来るよう配慮されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などから交流の場が広がり互いの情報や取り組みを伺い参考にしながら日頃の業務に活かされるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様や関わった人達から不安なことや今後どのような生活支援を考慮したらよいか？伺いご本人様にとってふさわしい生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、ご家族様が身近で一緒に生活をしていたらご本人様にどのようなことをしてあげたいか？又今迄の生活状況を伺いながら個人にとってふさわしい生活支援ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様より状況を伺いながらそしてご本人様の身体面やメンタル面を考慮しながら徐々に新たな生活の場所に慣れていただけるよう、そしてどのようなサービス支援が良いか？考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	慣れ親しみから、なれなれしくならぬよう一歩おきながら共に生活をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に職員数名とご家族様でご本人様の対応につて話し合いながら個人にとってふさわしい生活がおくれるよう又、ご家族様とのふれあいを大切にしながらの取組みをおこなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ行ったり、ご家族様のご協力の元、昔、住んでいた地域に連れて行っていただき知人の方達との縁が途切れないようにしている。	利用者の馴染みの店と協力し、利用を継続できるよう連携している。利用者の知人に事業所の行事の案内をして来訪を促している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士など考慮しながらテーブル席を決めたりし、穏やかな人間関係が築けるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後も相談を聞いたり、ご本人様の今後の生活の拠点を考慮しながら対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活状況からご本人様の意向的なものや趣向を見計らいながらご本人様にも要望を伺いできる限りの希望が叶えられ穏やかな気持ちで生活をしていただけるようにしている。	利用者が自宅で行っていた趣味や習慣の継続など、それぞれの価値観を尊重している。職員が付き添ってお香やたばこを楽しむなど希望を実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に今迄の生活状況や習慣を伺いながら自宅に居た時に近い生活がなされるよう又、習慣を活かしながら残存機能が保てるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時、行動、仕草などや普段の生活状況と見比べながら心身の様子を把握しご本人様にもさりげなく伺いながら穏やかな現状で過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の今迄の生活状況と意向や思いを伺い職員も把握した後にご家族様にも今迄の生活状況等お話し、互いの意見や考案をしながらご本人様にとってどのようなサービスがふさわしいのか？を考慮しながら介護計画を作成している。	利用者の希望とできることを継続し、支援の必要な部分にはさりげないサポートができるよう介護計画を立案している。利用者が自分を表現したり、楽しい時間を過ごせるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時口頭での話し合いや記録、ケア対応見直し表、アセスメント表などを用いて対応の仕方に活かされるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時ご本人様の状況を把握し、ご家族様と話し合い、一つの提案(ニーズ)を考案し、取り組み状況を把握しながら、どれが個人にとってふさわしいサービスになるのか？暗中模索をしながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内散歩などから地域の方にお花をいただいたり、飼われているワンコちゃんと触れ合わせていただいたりと、身近な資源から癒されたり楽しませてもらいながら地域で穏やかな生活が送れるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の要望から、ご家族様が受診に同行されかかりつけ医にて診ていただき関係を築きながら行っている。	訪問診療や訪問看護などを選択することができるようになってきている。また、専門病院の受診などの場合には遠方の家族へ病院からの検査結果の連絡なども行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を受ける前、状況コメント表に日常の気づきや変化等を記入し、看護師に相談をしながらその時々に合わせて対応の仕方について教えていただきながら受診に繋ぐ迄、配慮をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常時病棟スタッフやリハビリスタッフ、相談員、ご家族様と話し合い、退院後の生活状況を基に入院生活中で退院後に合わせた取り組みが出来るよう話し合いながら連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行い、又、随時状況を説明しながら次の生活の拠点について話し合いながらご本人様にふさわしい生活のあり方について話し取り組んでいる。	事業所では、エレベータがないことから、2階居室入居での重度化した場合の説明を行っている。必要に応じて母体法人の医療施設や特別養護老人ホームへの移行の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回、救命救急講習会を行い心肺蘇生時の対応や各入居者様の症状の出方に合わせた対応の仕方を学び即時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議などで避難訓練の内容を見ていただき、意見やコメントをいただきながら避難をする時の対応策について考慮し合わせて協力体制を求めて連携を図っている。	避難訓練は夜間想定で行っている。食料の備蓄を行っている。地域のハザードマップや避難所マップ、防災ガイドなどを参考に災害への備えを行っている。	事業所がある地域の町内会が機能していないなど、地域との協力関係の構築が難しい状況がある。しかし、近所との連携を進め、母体法人全体の防災体制を確認する等取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩を意識しながら各個人様の状況を把握しその方にとってどのような事が尊重にあたいするのか？を考慮しながら対応している。	毎月法人本部で行われる接遇委員会に管理者が参加している。利用者の価値観に配慮した対応ができているかを職員同士で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話などからご本人様の思いをうかがいさりげなく自己決定がなされるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の状況により、職員側の都合になっている時も必然的にあるが、なるべく入居者様のペースにそくよう配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みを尊重しながら自由に身だしなみをたしなんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の得意な作動を見分けながら一緒に準備や後片づけを行い、自宅にいた時に近い台所仕事として残存能力を活かせるよう取り組んでいる。	母体の病院の栄養士が立てた献立を提供している。利用者も調理の補助や後片付けの手伝いを行っている。利用者が落ち着いた雰囲気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の減塩や水分量、摂取量を把握しながらバランスの良い食生活が送れるよう又、習慣を活かしながら美味しく食事摂取がなされるよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前、口腔ケアを促し、又、誤嚥から疾患をもよおす事などを伝えながら口腔ケアを意識し自らおこなっていただけるよう取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導から1人1人の排泄状況を把握し、身体の様子や不衛生にならぬよう取り組み又、汚染された物を使用していると疾患を招くことなどを話しながら自ら交換をされるよう取り組んでいる。	排泄パターンをチェックしながら概ね2時間おきにトイレ誘導をしている。声を掛ける際も周りの利用者にはわからないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を回避出来るよう午前のお茶時にホットミルクを飲用していただいたり、適度な運動を行いながら予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく1人1人がゆとりを持ちながら入浴をされるよう時間配分を考慮し色々試みながら取り組んでいる。	入浴は週3回を目途に行っている。シャワー設備が3つある広い浴室で大きな浴槽にゆったり浸かることができる。早めの時間帯や湯の温度なども希望を取り入れて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の生活ペースを把握し、休息をされたり、適度な運動を行いながら心身に健康で気分良く過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おんど版に薬の効能を記載し、服用の把握をしながら安全な服薬がなされるよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の特技を活かし、無理なく作動しながら気分転換に繋げられるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々の様子をみながら仲の良い方同士で買い物へ行ったり、ご本人様が以前行われていた農家の仕事(田んぼ)を見学に行ったりし、気分転換、回想法を取り入れた取り組みをしている。	利用者と職員と一緒に10時と3時のお茶菓子を買いに出掛けている。散歩や地域の催しなどへ誘い、一緒に出掛けている。気分転換も兼ねて個別やみんなで外出できる機会を多く持てるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご自分でお金を所持したいという観念もあることからご家族様、ご本人様と話し合いをしながら所持金をご自分で管理されている。他、外出時などご自分でお支払いをしていただき金銭感覚を保持されるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	中々ご本人様自らがご家族様へ連絡をしたいということがないこともあり(心配をかけたくない、若しくは意識がないのか?)職員、ご家族様へ要件時にご家族様とご本人様の話す場を設けお話をしてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物などを置き自然と向き合えるよう又、浴室には富士山の絵(入居者様が色塗りした物)を飾り各場所よっての雰囲気を表し景観を良く心地良く過ごせられるよう配慮している。	居間には畳のスペースとソファを置いてあるコーナーがある。居間から続く食事スペースのテーブルでは、利用者が一緒に高齢者文化展への作品を作るなど、レクリエーションにも活用されている。植物を配し、温度と湿度管理が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人用椅子を所々に配置し1人で休んでいたいたり仲の良い者同士が語り合える場を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物など使用していただき、ご自宅に居た時と近い状態で生活が出来るようご家族様、ご本人様と話し合いながら居心地の良い居室作りをしている。	利用者は冷蔵庫や仏壇など、自分のライフスタイルに合わせた家具や思い出の品を持ち込んでいる。暖房や冷房の設備もあり、快適に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞を取りに行ったり、カーテンの開閉など出来る事や理解され出来る動作などを見分けながら行っていただき、意欲、残存機能を活かしながらの取り組みをしている。		